



あ

あいばんしょ
あががわなが
阿賀川流れる
にしあいづ
西会津



あ

い

いしかわえいさく
石川暎作
アダムスミスの
ふこくろん
『富国論』



い

う

うつく
美しい
けいこくぜつけい
渓谷絶景
ちようしぐち
銚子口



う

え

えんまんじ
円満寺
かんのんどう
観音堂は
ぶんかざい
文化財



え

お

おくがわ
奥川に
いいで ひきよう
飯豊の秘境
つば
釣り場あり



お

阿賀川

会津盆地の中央を流れる阿賀川は、「会津を育んだ母なる川」ともいわれ、その豊富な水を利用して江戸時代から明治初期にかけて舟運による物資輸送が発達し、地域の生活・文化に密接に関係してきました。
新潟県に入ると、「阿賀野川」と名前を変えます。

石川暎作

【1858～1886】
野沢本町出身の石川暎作は、イギリスの経済学者アダム・スミス『富国論』他の翻訳に命がけて着手、また束髪など女性の地位向上運動にも取り組み、満28歳直前で天逝しました。

銚子の口

阿賀川の川幅が急激に狭くなって、その地形がお銚子のくびれに似ていることからこの名前がつきました。
奇岩が兩岸よりせり出している渓谷美は見事で、紅葉時期が一番の見頃。JR磐越西線の上野尻駅～徳沢駅間の車窓からも見ることが出来ます。

円満寺観音堂

出ヶ原にある円満寺観音堂は、室町期の建立とされ、南北朝初期形式技法と会津地方の建築の特徴を備えた貴重な建造物です。
昭和41年に国の重要文化財に指定され、集落内から現在の場所に移設されました。

奥川の渓流釣り

阿賀川支流の奥川は会津屈指の渓流釣りのスポットで、イワナやヤマメが釣れます。
4月1日が渓流釣り解禁日（～9月末まで）。

か 蒲生氏郷の
え くに
絵は国の
じゅうようふんかざい
重要文化財



き きりげた
桐下駄は
は
履きこむほどに
なじ
馴染みくる



く くるまぶ
車麩は
すみび
炭火でじっくり
とくさんひん
特産品



け けだかさ
気高く咲く
おとめゆりは
まち はな
町の花



こ こ
子どもたち
やしきにんぎょう
屋敷人形
つた っ
伝え継ぐ



絵画・紙本着色蒲生氏郷像
蒲生氏郷を描いたこの画像は、上野原の西
光寺が所有し、大正4年に国宝に指定され、
昭和25年の法改正で、国の重要文化財とな
りました。
現在は県立博物館で保管されています。

桐下駄
会津の特産である最高級品質の桐から生
み出される桐下駄は、美しい光沢と肌触り
で、履きこむほどに愛おしくなります。

男滝・女滝
鬼光頭川の源流、熊沢にある男滝・女滝は、
30m以上の落差を誇る大きな滝です。
そこはかつての修験道の聖地で、男滝は昔
は行滝と呼ばれ、弘法大師も滝に打たれて修
業したといわれています。

おとめゆり
町の花「おとめゆり」は、東北地方の一部
に限られて自生する珍しく貴重な花です。町
内の山地に数多く自生し、鉄砲の形をしたピン
クノ可憐な花が6月上旬から中旬にかけて
て野山を飾ります。
古くはアイヌサユリとも呼ばれていまし
た。

屋敷人形
屋敷に伝わる屋敷人形は、町の文化財にも
指定されており、地区住民の方によって大切
に保管されてきました。
その存在を知った地区の子どもたちが、イ
ンターネットなどで詳しく調べ、自分たちが
なり人形劇を復活させました。

さ

さけ かみ
酒の神

まつおじんじや
松尾神社の

みずと
お水取り



さ

し

じゆうみんけんうんどう
自由民権運動の

やまぐちちよさく
山口千代作と

こしまちゆうはち
小島忠八



し

す

すみ や
炭で焼く

くるまが まち
車麴町の

とくさんひん
特産品



す

せ

せめげんじよ
せめげんじよ

ほこ
誇りがぎつしり

じまんかん
自慢館



せ

そ

その昔
むかし

えいが ち
栄華を散らした

ふげんぞうざくら
普賢像桜



そ

松尾神社

松尾にある松尾神社は、会津地方唯一の酒の神様として、会津のみならず新潟方面の酒造家の信仰を集めており、隣の真福寺客殿には良寛筆の模刻献額が奉納されています。

山口千代作と小島忠八

山口千代作【1848～1909】
小島忠八【1856～1922】

明治15年、薩摩出身の県令・三島通庸の県民への庄政に対し、県議会議員であった森野の山口千代作と野沢原町の小島忠八は住民の代表として、自由民権運動を展開しました。

車麴

炭火で焼く昔ながらの製法にこだわった麴です。もちもちとした食感が人気で、煮物・汁物・和え物など様々な料理に使えます。また、西会津高校が開発した「車麴ラスク」もサクとした食感が特徴の新しいスイーツとして人気です。

ふるさと自慢館

町の歴史や文化、研幾堂から生まれた偉人達を歴史的な資料を交えて紹介し、西会津の誇りと自慢を後世に伝える資料館です。歴史をひも解く力がここにあります。

普賢像桜

野沢下條にある普賢像桜は、樹齢500年をへたエドヒガン桜の変異種で、旧越後街道野澤宿の西の入口の目印でした。白狐の巣穴洞や野澤宿の飯盛り女の悲しい伝説をもち、千歳桜や化け桜とも呼ばれました。

た

滝坂の
たきざか地滑り止めた
じすべと
くにこうじ
国工事

ち

ちぢれ麺
めん何度も食べたい
なんどた
みそ
味噌ラーメン

つ

土作り
つちづくミネラル野菜の
やさい
自慢です
じまん

て

伝統を
でんとう守り受け継ぐ
まも う っ
張子赤べこ
は こ

と

鳥追観音
とりおい かん のん会津ころろに
あいづ
だきつき柱
ばしち

滝坂の地滑り

滝坂地滑りは、南北約2・1km、東西約1・3km、面積はおよそ150haと日本最大級の地滑りといわれています。
昭和33年から福島県が対策工事に乗り出し、平成8年度からは国直轄事業として対策工事を進めています。

西会津味噌ラーメン

戦前の支那蕎麦の伝統を受け継ぐ、西会津の味噌ラーメンは、喜多方の醤油ラーメン、北塩原の塩ラーメンと並び会津三大ラーメンとして、首都圏にまで名前が知れ渡っています。

阿賀川

会津盆地の中央を流れる阿賀川は、会津を育んだ母なる川ともいわれ、その豊富な水を利用して江戸時代から明治初期にかけて舟運による物資輸送が発達し、地域の生活・文化に密接に関係してきました。
新潟県に入ると、「阿賀野川」と名前を変えます。

張りの赤べこ

400年以上の伝統をもった会津地方の民芸品である赤べこは、子どもの守り神として現在も日本で愛されています。
この赤べこの全国一の生産を誇る会社は、西会津町にあります。

鳥追観音（如法寺）

塔寺の立木観音や新鶴の中田観音と並び西平の鳥追観音は、奈良時代創建の如法寺にあり、堂内には生涯現役を祈る観音様や様々な願いを聞き届ける男柱と女柱のだきつき柱があります。

な

なじよな願ねがい
おおやまさま
大山様は
聞きなさる



大山祇神社

宇陀帰山に鎮座する大山祇神社は古来より山伏の修行場でした。
野沢駅の開通により、野沢の「山の神様」として、県内のみならず新潟・山形方面からの参拝者で賑っています。

に

によほうじ
如法寺に
せんにひやくねん
千二百年の
こうやまき
高野槇



如法寺の高野槇

如法寺の境内にある高野槇は樹齢1000年以上ともいわれる巨木で、昭和30年に県の天然記念物に指定されています。
三代藩主・松平正容や秋篠宮悠仁親王とのゆかりを持つ古木です。

ぬ

ぬくもりと
あふ
溢れるもてなし
おくがわ
奥川マラソン



奥川健康マラソン

昭和51年から開催されている奥川健康マラソンは、新緑の渓流沿いの奥川路をコースとしたマラソン大会です。
ゴール後には、地元の方々から、車麩やワラの入った山菜汁などの温かいおもてなしが受けられます。

ね

ひょうばん
ネットで評判
なつかしCかarショー
しっそう
疾走す



なつかしCarショー

1960～1970年代の懐かしの名車・スーパーカーやバイクが大集合し、全国各地からカーマニアが駆け付けるビッグイベントです。

の

のざわまち
野沢町
えちこかいどう
越後街道
しゆくばまち
宿場町



越後街道野澤宿

野沢の原町・本町の市街地は、若松城下と新発田藩の城下町を結ぶ越後街道の宿場町・野澤宿です。
新潟県阿賀町の津川宿や会津坂下町の坂下宿とともに三大宿駅と呼ばれました。

は

ハウスでは
きんしょう
菌床きのこの
だいがっしょう
大合唱



菌床キノコ

菌床づくりからキノコの生産まで、全て生産者達が行っている安全・安心なキノコです。
シイタケは、平成26年に開催された「全国キノコ食味&形のコンテスト」で菌床シイタケの部で日本一を獲得しました。

ひ

ひでよ
英世の手
わたなべかなえ
渡部鼎が
なお
治したよ



渡部鼎

【1858～1932】
渡部忠齋の長男・鼎は、アメリカ・サンフランシスコ留学から帰国すると、会津若松で会陽医院を開設、野口清作（のちの英世）の火傷の左手を手術し、医学への道を照らし出す。

ふ

ふじ じんがみね
富士の陣ヶ峯
とうげ ぼしん
峠は戊辰の
げきせんち
激戦地



陣ヶ峯峠

喜多万市高郷町磐見と新郷・富士の境界にある陣ヶ峯峠は、慶応4年（1868）9月2日に会津藩や旧幕府軍の大鳥圭介、新選組の斎藤一（藤田五郎）らが西軍と戦闘を交えました。

へ

への 乗せて
へんしん
変身ヒーロー
しょうじん
丞神デナー



丞神デナー

西会津のご当地ヒーロー。
赤へこの形をした「ペナ」を頭に乘せれば、誰でも「丞神デナー」に変身できる。
地域の子ともたちが明るい未来を自分の力で切り開けるようにという願いが込められています。

ほ

ほうさく
豊作を
ねが あまご
願う雨乞い
すがりだけ
須刈岳



須刈岳

上野尻の北側を西に流れる阿賀川（あががわ）の左岸にたたずむ須刈岳は、古くから山麓の住民が豊作祈願と雨乞いを行ってきた信仰の山で、戦の狼煙場や狗天様（天狗）の伝説も伝わります。

ま

まちいちばん
町一番

さくら めいしょ
桜の名所

はつでんしょ
発電所

ま



上野尻発電所の桜

昭和33年に運用開始された上野尻発電所は、越後裏街道の横渡し場に設置されました。
発電所は憩いの場として阿賀川両岸に桜を植樹し、桜並木は観光スポットになっています。

み

みんなして

た
食べてみらんしょ

にしあいづまい
西会津米

み



西会津米

霊峰・飯豊山の伏流水と肥沃な土地、さらには寒暖の差が大きい西会津の米の食味は、全国でもトップクラスです。
生産者の中には、平成26年度米食味分析鑑定コンクールで日本一の「金賞」に輝いた方もいます。

む

むらびと
村人の

しあわ いの
幸せ祈る

いわやさま
岩屋様



岩屋虚空蔵尊

出戸から徒歩1時間、高陽山の山麓にある岩屋虚空蔵菩薩は、難所の廟の中におかれています。
永正8年(1511)以来、500年以上、地域の人々の心の支えとなっています。

め

めんごいなあ

こゆりちゃんは

マスコット



こゆりちゃん

飯豊山の使者で、おとめゆりの妖精。足には桐下駄を履いています。
平成22年3月に町のキャラクターとして誕生しました。

も

もくぞう
木造の

こうしゃ
校舎にアートの

はな さ
花が咲く



西会津国際芸術村

廃校となった木造校舎を創作活動・ギャラリー・地域文化の育成・グリーンツーリズムの拠点等に活用している文化交流施設です。
様々なジャンルの企画展や公募展に加え、版画や陶芸などのワークショップ、ジャズやクラシックコンサートなど多彩なイベントが目白押しです。

や

やえ あに
八重の兄

かくま かんけん
覚馬の「管見」
のざわけいち
野澤雞一



野澤雞一

【1852~1902】

野沢原町出身の野澤雞一は、鳥羽・伏見の戦いで捕えられた薩摩藩邸内で、失明した恩師・山本寛馬の『管見』をわずか16歳で口述筆記し、近代日本の未来の姿を示しました。

ゆ

ゆうだい
雄大に

こうえん
さゆり公園
しぜん
自然あり



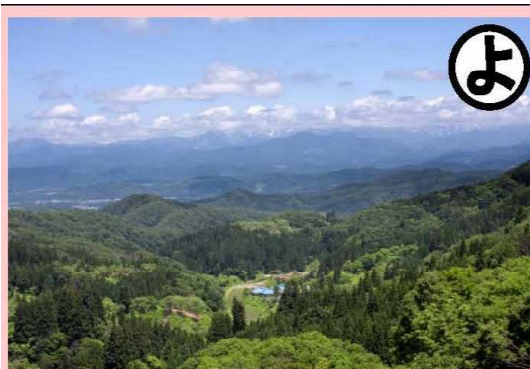
さゆりの公園

敷地総面積10万平方mを有する水と緑に囲まれたスポーツと憩いの場で、公園内には野球場や陸上競技場、屋外プールや屋内温水プールなど様々な運動施設があります。
また、公園の所々にはブロンズ像があり、文化の香りに包まれながら散策を楽しむこともできます。

よ

よる ほし
夜の星

て とと
手に届くよな
てんくう さと
天空の郷



天空の郷

尾野本の上谷地区は、古来より柳津の虚空蔵尊への参詣道筋でした。
峠の遥か東向こうには会津盆地が、こちら側からは越後街道野澤宿を往来する人や馬までもが見渡せました。

ら

ラッセルと
ロータリー車しゃ

てんじ
展示あり
展示あり



ラッセル車とロータリー車

西平の鳥追観音の反対側に、単線用ラッセル雪力キ車（マックレー車）と回転雪力キ車（ロータリー）があります。
全国で北海道の名寄、小樽と西平の3か所だけの展示車両です。

り

りようか
旅行家の

くろまとうげ なんしよざか
イザベラ・バード
車峠の難所坂



車峠

イギリスの女性旅行家であるイザベラ・バードは、明治11年（1878）6月末に越後街道の車峠に到着し、その茶屋で二泊しました。バードは、車峠からの眺めを絶賛しています。

る

ルートあり
いいで げんかん
飯豊の玄関
やへいしろう
弥平四郎



弥平四郎

弥平四郎は本地師の里として様々な伝説を持つ集落であり、登山シーズンには飯豊山へのルートとして、お花畑や池塘、雪溪に飾られた稜線を目指す登山家の玄関口になっています。

れ

れいほう
霊峰と
あがめまつらん
いいでさん
飯豊山



飯豊山

飯豊連峰南部に位置する飯豊本山は、福島・山形・新潟の三県にまたがり、頂上近くに飯豊山神社奥宮が祀られています。男子が青年期を迎えると飯豊本山に登山する山岳信仰がありました。

ろ

ロータスイン
ほうふ
ミネラル豊富な
てんねんせん
天然泉



ロータスイン

町唯一の温泉宿泊施設です。源泉掛け流しで泉質はナトリウム塩化物泉。神経痛・疲労回復に効能があります。

わ

わ まち
我が町に
わたなべしさい
渡部思斎の
けんきどう
研幾堂



研幾堂

渡部思斎【1832〜1889】
野沢原町の漢方医・渡部思斎は、会津藩日新館医学寮学監を断り、自宅に私塾・研幾堂を設け、医療のかたわら、近郷近在の二百数十名の子弟に法政・経済・文学・医学を教育しました。

ん

んーだべえ
みやこ
す
住めば都の
にしあいづ
西会津



西会津町民憲章

に担います 未来を拓く まちづくり
し信じます 敬うところ おもいやり
あ愛します 豊かな自然 住まうひと
い活かします 郷土のだから みんなの夢
づ創ります 笑顔あふれる ふるさとを